

環境調査結果のお知らせ

令和元年7月23日午前9時半から浦ノ内湾の環境調査を実施しましたので、結果をお知らせします。

湾内の環境は、水温25.0～28.1℃、塩分8.4～30.3、溶存酸素量0.8～9.8mg/lでした。  
 前回調査時(R1.7.16)と比較して、水温は表層及び5m層から底層で0.2～0.4℃上昇しました。塩分は全層で0.8～4.7下降しました。溶存酸素は表層で0.7mg/l減少し、2m層から底層で0.2～1.6mg/l増加しました。

**中学校前、目ノクソ、光松、大鹿の10mより深い層、及び水試小割前の底層で貧酸素状態となっていました。**  
 透明度は1.1～1.5mでした。

検鏡の結果、有害種のカレニア・ミキモトイが最高で1,400cells/ml、シャットネラ属が最高で3,000cell/ml、ヘテロシグマ・アカシオが最高で400cells/ml確認されました。

**シャットネラ属が湾全域で漁業被害が想定される細胞密度を大きく超えています。**

**今後も増殖、拡大する可能性があります。餌止めなど、慎重な養殖管理をお願いいたします。**

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

表1 水温(℃)

調査地点	前回調査(7/16)						今回調査(7/23)		前回との差 今回-前回
	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	漁場平均※		
0m	27.8	27.7	27.7	27.7	28.1	27.7	27.3	0.4	
2m	25.7	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	0.0	
5m	25.6	25.2	25.2	25.2	25.2	25.2	25.0	0.2	
10m	25.3	25.3	25.3	25.2	—	25.3	24.9	0.4	
B-1m	25.1	25.0	25.0	25.0	25.1	25.0	24.8	0.2	

表2 塩分

調査地点	前回調査(7/16)						今回調査(7/23)		前回との差 今回-前回
	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	漁場平均※		
0m	8.4	9.4	10.9	10.9	12.2	10.4	12.5	▲ 2.1	
2m	21.2	21.4	21.9	21.9	21.6	21.7	26.4	▲ 4.7	
5m	26.0	25.7	25.7	25.5	25.5	25.6	29.0	▲ 3.4	
10m	29.3	28.7	28.7	29.0	—	28.8	30.5	▲ 1.7	
B-1m	29.9	30.3	30.3	30.1	28.8	30.2	31.0	▲ 0.8	

表3 溶存酸素量(mg/l)

調査地点	前回調査(7/16)						今回調査(7/23)		前回との差 今回-前回
	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前	漁場平均※	漁場平均※		
0m	9.6	9.5	9.8	9.8	9.2	9.7	10.4	▲ 0.7	
2m	6.7	8.0	6.6	6.6	7.7	7.0	5.4	1.6	
5m	3.6	4.6	4.6	4.4	4.5	4.5	3.4	1.1	
10m	1.3	1.9	1.9	1.8	—	1.9	1.1	0.8	
B-1m	0.9	0.9	0.8	0.9	1.8	0.9	0.7	0.2	

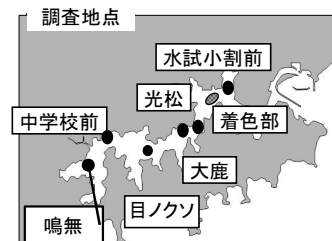
※ 目ノクソ・光松・大鹿の平均値

表4 水深・透明度(m)

調査地点	中学校前	目ノクソ	光松	大鹿	水試小割前
水深	12.9	15.6	17.8	17.3	9.9
透明度	1.1	1.3	1.5	1.5	1.5
前回(7/16)	0.8	1.0	1.3	1.2	1.3

表5 プランクトン(cells/ml)

調査地点	水深	カレニア・ミキモトイ	シャットネラ属	ヘテロシグマ・アカシオ	珪藻類
		中学校前	0m	0	20
中学校前	1.1m	1,400	2,800	0	0
	2m	700	2,200	0	35
	5m	10	60	0	0
	10m	0	0	0	0
	11m	0	0	0	0
目ノクソ	0m	0	0	400	120
	2m	850	400	0	20
	5m	60	30	0	5
光松	0m	0	0	250	10
	1.5m	800	2,600	0	10
	2m	400	600	0	20
	5m	0	150	0	0
	10m	1	0	0	0
大鹿	16m	2	4	0	0
	0m	0	0	0	250
	1.3m	1,200	400	0	10
	2m	250	900	0	5
水試小割前	5m	80	20	0	5
	0m	0	0	0	0
	2m	140	360	0	10
鳴無	5m	25	20	0	5
	1.3m	1,100	2,900	120	0
着色部	1m	1,400	3,000	0	0



漁業被害が想定される細胞密度

- ・カレニア・ミキモトイ：  
数百～数千cells/ml(魚類等のへい死)
- ・シャットネラ属：  
10～100cells/ml(魚類へい死)
- ・ヘテロシグマ・アカシオ：  
50,000cells/ml～(魚類のへい死)